



テーマ 「全校で取り組むキャリア教育」

今年度、住之江支援学校では「全校で取り組むキャリア教育の推進」を目標にカリマネ推進委員会を中心に取り組んできました。しかし、「キャリア教育の推進」と言葉で聞いてもどんなことをすればキャリア教育なのか、具体的なイメージがわいてこない・・・ということもあると思います。12月19日(木)の進路研修会(職員向け)でお話した内容をまとめましたので、改めて「キャリア教育」について共通理解を図りたいと思います。



「キャリア教育」ってなに??

◎キャリアとは

人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

◎キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

◎キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

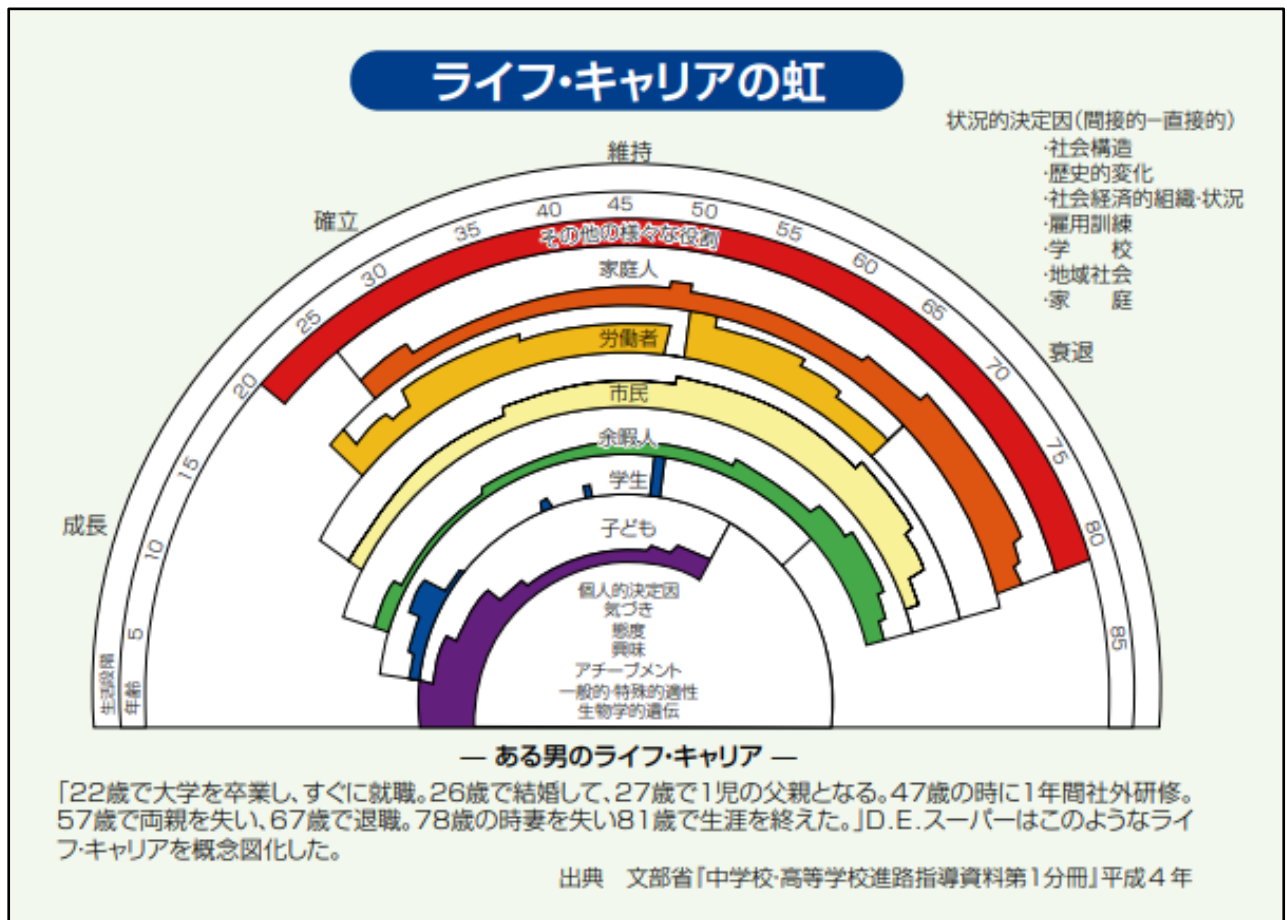
(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

(文部科学省ホームページより)

「キャリア」ということばを共通理解するためにキーワードとなるのが「役割」です。

【図1】は「ライフキャリアの虹」という、ある男性の人生を7つの役割に分けて表したものです。例えば、生まれてから、57歳で両親が亡くなるまでは「子ども」という役割があります。22歳で大学を卒業するまでは「学生」の役割に色がついています。それ以降もところどころに青色があり、47歳で1年間の社外研修に行っているため「学生」の役割を果たしています。大学卒業後はすぐに就職して、67歳で退職しているため「労働者」の役割が黄色で示されています。26歳で結婚して、81歳で亡くなるまで「家庭人」としての役割を果たしています。

【図1】「ライフキャリアの虹」(文部省「中学校・高等学校進路指導資料第1分冊」)



【図1】はある男性の一例ですが、「学生」という1つの役割の中にもさまざまな役割に分けられますし、学校生活の中でも様々な役割があります。

例えば、住之江支援学校では小学部としての役割、中学部としての役割、高等部としての役割があります。さらに、1年生としての役割、2年生としての役割、3年生・・・など各学年ごとの役割があります。もっと細かくすると、クラスの中でのそれぞれの役割、係活動や委員会活動などもあります。

このようないくつかの役割を果たしながら、自分の役割の価値や関係を見いだしていく積み重ねが「キャリア」であり、役割を果たしながら自分らしく生きていくことが「キャリア発達」です。

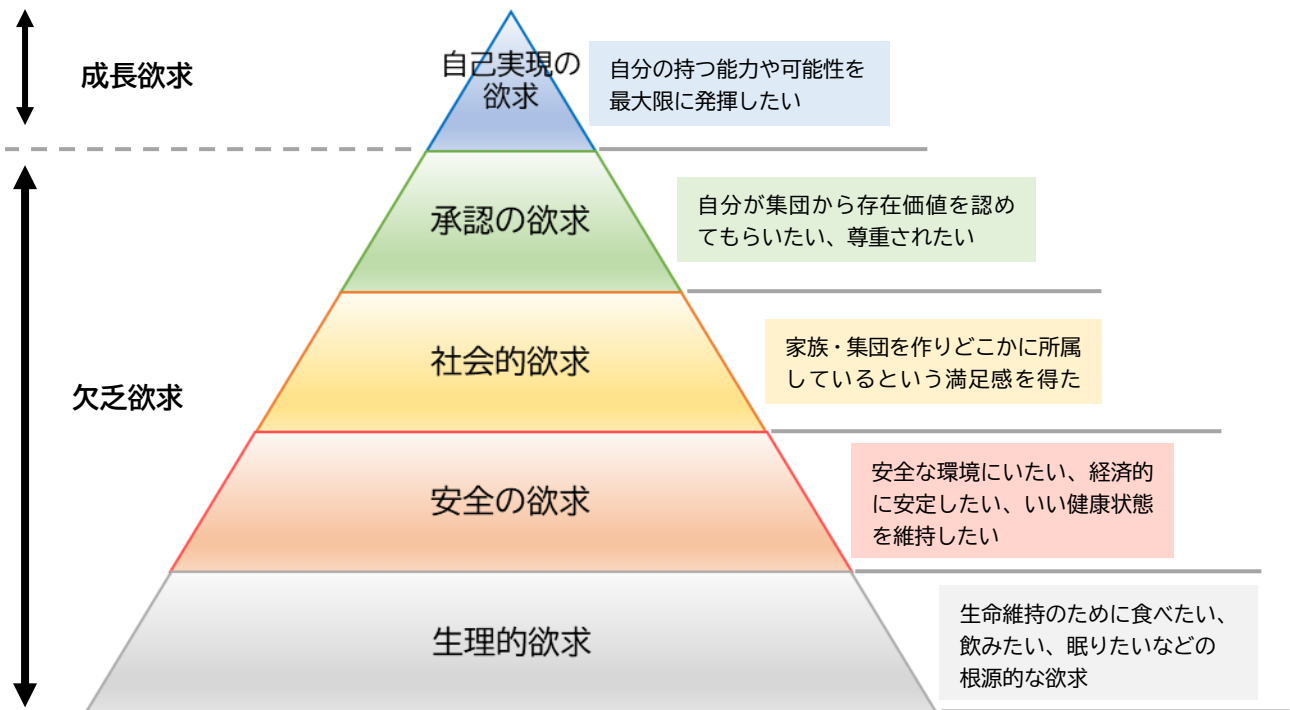
なぜ働くの？



キャリア教育の定義にある「社会的・職業的自立」ということばは、一見すると「就職」や「企業就労」という単語が浮かんできますが、住之江支援学校では、高等部卒業後に生徒がそれぞれの形で「社会とつながること」や「働くこと」を「社会的・職業的自立」と捉えています。

では、なぜ「社会とつながること」や「働くこと」が必要なのかを【図2】の「マズローの欲求5段階説」を参考に共通理解をしていきたいと思ひます。

【図2】マズローの欲求5段階説



注目してほしいところは「承認の欲求」の部分です。

「ありがとう」と言われて人の役に立ったり、人に頼られたり、褒められたりして満たされる「承認の欲求」は働くことでたくさん得られるものであるということです。生徒が卒業後にそれぞれの形で「働くこと」や「何かお手伝いできること」で承認欲求がたくさん満たされるということは生徒たちの幸せに繋がると捉えることができます。

また、生理的欲求から承認の欲求までは「欠乏欲求」といい、満たされないと満足できず、不満を感じてしまう欲求です。承認の欲求の1つ下には「社会的欲求」があります。これは集団に属しているという満足感のことで、「福祉施設などに通所して安心して過ごすところ」ができるということも生徒たちの卒業後の幸せにつながっています。

だからこそ、この欲求を満たすことができる「働くこと」「お手伝いできること」「通所して安心して過ごせること」が重要になってくるのです。

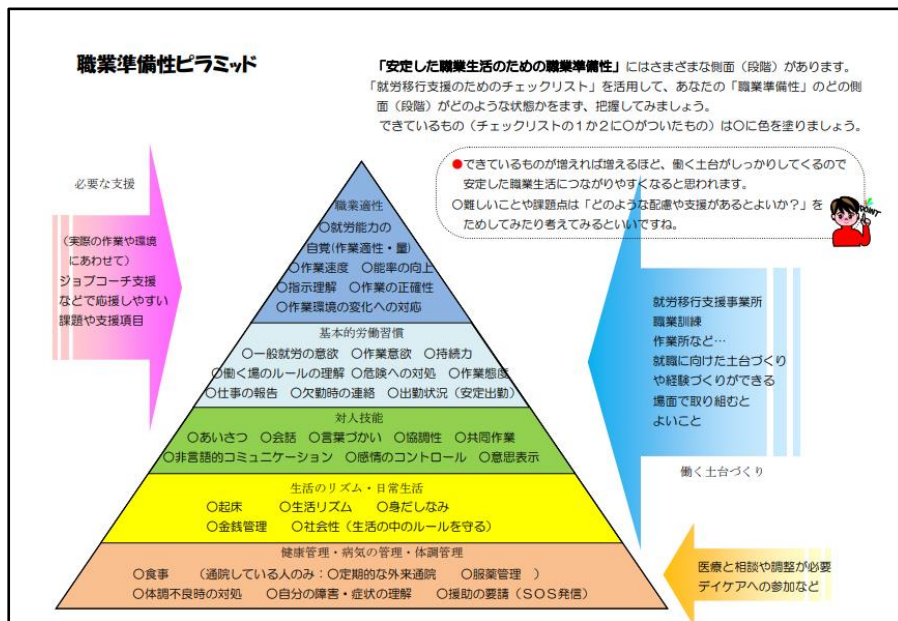
つまり、学校生活の中で「働く」「お手伝いできる」「通所して安心して過ごせる」力をつけ、自分らしく生きていけるようにすることが「キャリア教育」なのです。



住之江支援学校で取り組む「キャリア教育ピラミッド」

実際にキャリア教育の内容を具体化するにあたって参考にしたものが【図3】「職業準備性ピラミッド」です。これは主に就労移行支援の事業所や障がい者雇用を行っている企業などが職業生活を支援する際に活用しているものです。5つの項目から構成されていますが、ピラミッド型になっていることから分かるように、土台となる項目からできることが増えていくほど、安定した職業生活がおくれるようになります。

【図3】「職業準備性ピラミッド」(高齢・障害・求職者雇用支援機構)

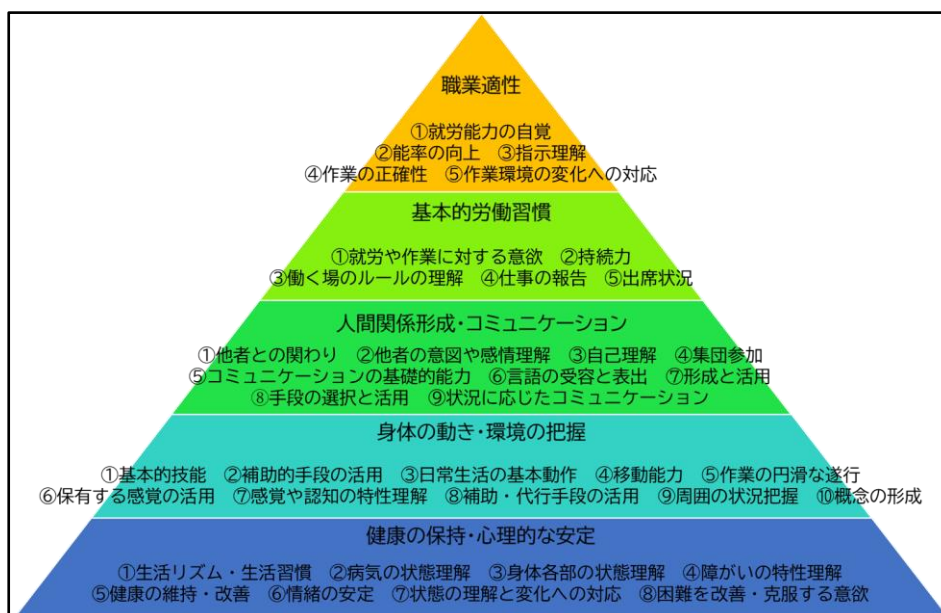


事業所や企業が卒業後の支援に活用しているツールを参考にして、学校生活でも使えるように整理していると、ピラミッドの土台となる「健康管理・病気の管理・体調管理」「生活のリズム・日常生活」「対人技能」が自立活動の「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」などの6区分27項目と共通している部分があることに気がきました。

また、ピラミッド上部にある「基本的労働習慣」「職業適性」は中学部・高等部の職業の授業や体験学習、校内実習、現場実習等で目標としている内容と近いものが多いことが分かりました。

小学部から自立活動に取り組んでいくことが「キャリア教育」そのものであり、先生方に現在、取り組んでいる教育活動が「キャリア教育」につながっていることが分かるように自立活動の6区分27項目を加え、住之江支援学校に合わせて整理したものが【図4】「キャリア教育ピラミッド」です。

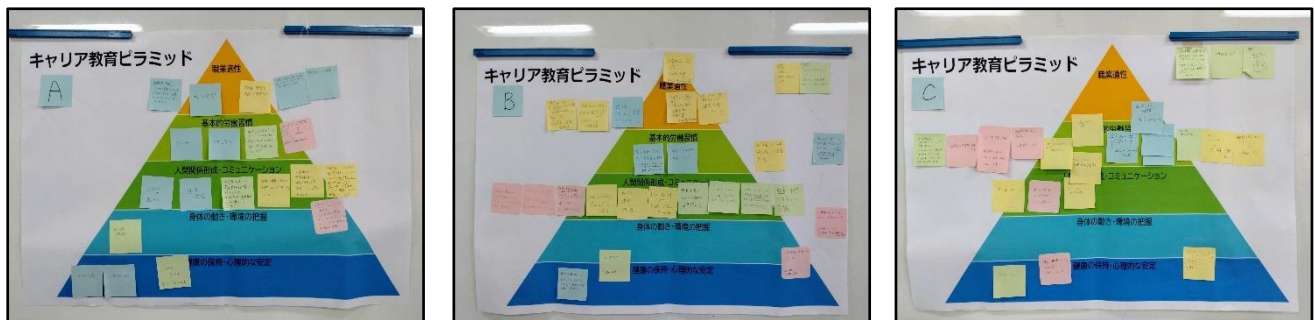
【図4】「キャリア教育ピラミッド」



「キャリア教育ピラミッド」を活用したカリマネ推進委員会での取り組み

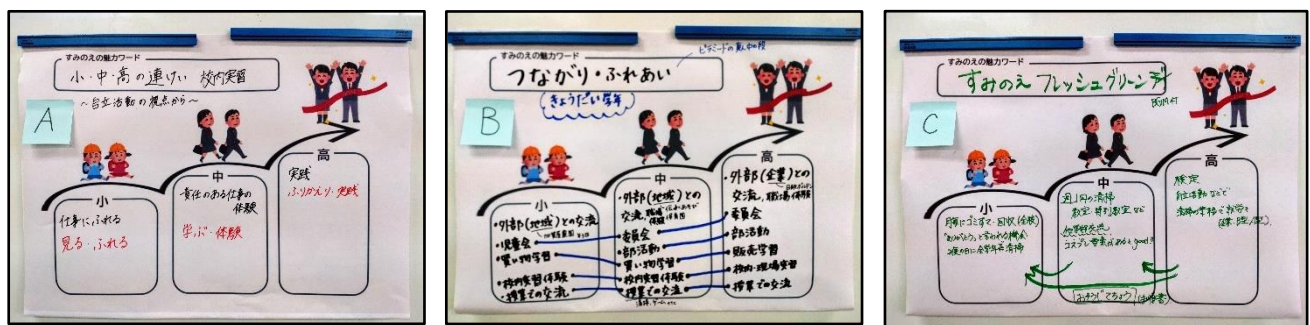
冒頭でも述べたとおり、今年度のカリマネ推進委員会では、「全校で取り組むキャリア教育の推進」をテーマに取り組んできました。その中で、「キャリア教育ピラミッド」を活用して「学校全体としてのキャリア教育の取り組みを考える」というコンセプトで全2回のグループワークを行いました。1回目は「魅力発見！？住之江支援学校のキャリア教育と言えば！？」というテーマを聞いて思いつくことを書き出してもらい、「キャリア教育ピラミッド」の項目別に仕分けて各グループで特徴をまとめてもらいました。【写真1】

【写真1】



2回目は「魅力を膨らませて！住之江支援学校のキャリア教育とはコレだ！」というテーマで1回目に魅力を仕分けた「キャリア教育ピラミッド」の中から魅力ワードを選んでもらい、各グループで本校の具体的なキャリア教育の取り組みを考えてもらいました。【写真2】

【写真2】



1回目のグループワークでは「人間関係形成・コミュニケーション」「基本的労働習慣」「職業適性」に思いつく魅力が集中していました。2回目のグループワークでは、選んだ魅力ワードから膨らませた取り組みの内容がそれぞれのグループで異なっていました。小学部から高等部まで系統立てた教育活動のねらいとなるキーワードが出たり、現在取り組んでいる体験学習・実習・交流活動が整理されたり、現在、小学部・中学部・高等部で取り組んでいる清掃に関する活動を整理し、新たな取り組みのアイデアが生まれたりするなど、充実したグループワークとなりました。

レジリエンスを高めるとは・・・??

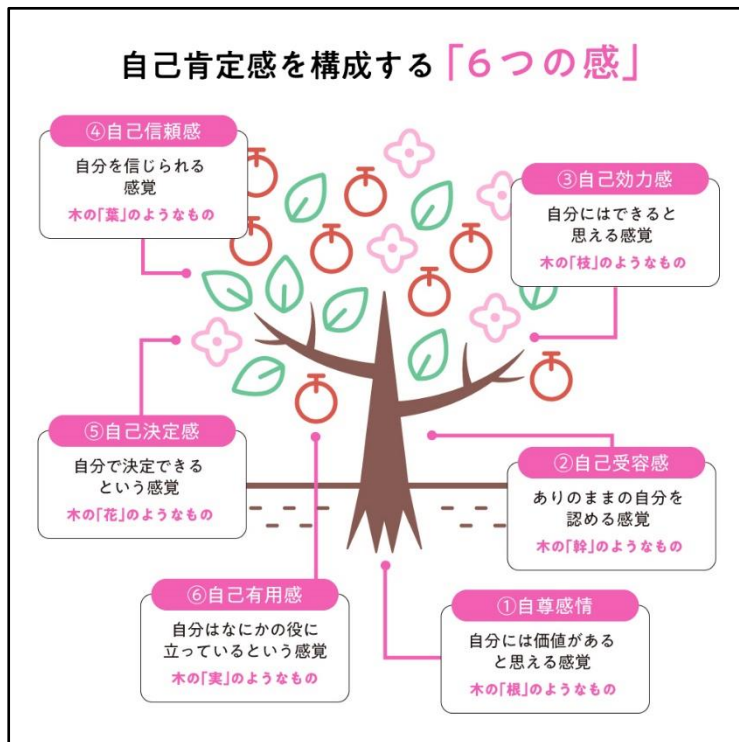


学校経営計画の「全校で取り組むキャリア教育の推進」には「レジリエンスを高めるキャリア教育の推進」という項目があります。

「レジリエンス」とは、困難をしなやかに乗り越え、回復する力（精神的回復力）という意味です。

精神的回復力と書かれているように、私は「レジリエンス」は教えてできるようになるものではないと感じています。「レジリエンスを高める」とは「心の成長」ではないかと捉えました。心の成長を促すためには「自己肯定感を高める支援」が必要だと考えます。自己肯定感は「6つの感」で構成されています。意味を整理するために参考になったものが【図5】です。

【図5】「自己肯定感を構成する「6つの感」」（「ナースプラス」マイナビ看護師）



困難なことに出会ってもそれを乗り越えてまた立ち向かうには、できないことがあっても自分を受け入れられる「①自尊感情」「②自己受容感」、次の手立てにチャレンジできる「③自己効力感」「④自己信頼感」の4つの感が特にポイントになってくるのではないかなと感じました。

さらに、付け加えるならば、木が大きく太く育つためには「土」が大事であると考えます。学校が児童生徒にとって「ふかふかの安心できる土」＝「心の安全基地」になることで、児童生徒の心は安心して自由に大きく育っていくのではないかと思います。

今後も住之江支援学校では、児童生徒の心の成長を促しながら、「キャリア教育ピラミッド」を指針として活用し、児童生徒が自分らしく生きていけるようなキャリア教育を推進できるよう学校全体で考えていきたいと思っています。